

長崎県北松浦郡鷹島周辺海底に眠る元寇関連遺跡・遺物の把握と解明

池田 栄史 (琉球大学・法文学部・教授)

【研究の概要等】

長崎県北松浦郡鷹島周辺海域は、1281(弘安4)年に起こった元寇の際に、暴風雨によって多くの元軍船舶が遭難した場所として知られる。このことを重くみた鷹島町では、鷹島の南海岸延長約7.5km、沖合200mの海域について、昭和56年7月20日付けで埋蔵文化財含蔵地に指定した。しかしながら、およそ4,400艘とされる元軍船舶は指定海域に止まらず、鷹島を含む伊万里湾全域に分布するとともに、これまでの調査で把握されたよりも膨大な内容を秘めていることが容易に推測される。

本研究ではこのような元寇に際した沈没船の分布範囲とその具体的内容を解明するために、これまでの水中考古学的調査手法に加えて、海洋資源調査に用いられる物理探査装置を導入し、総合的な調査・研究を行なう。これによって、これまでの文献研究を中心として進められてきた元寇研究に対して、新たな研究の枠組みを構築する。

【当該研究から期待される成果】

これまでの水中考古学研究には、潜水技術や器材、調査海域の条件などの点で様々な調査障害があった。これに対して、本研究では近年飛躍的に発達した海底物理探査装置とGPSシステムを導入することにより、従来の中考古学研究システムを大きく転換させることとなる。また、本研究の実施によって、世界史的にも希有な大規模海難事件でもある元寇の実態が極めて具体的に解明されることとなる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

・ 池田栄史編『平成16年度シンポジウム 東アジアの水中考古学 資料集』
(文部科学省科学研究費補助金平成15～19年度特定領域研究 中世考古学の総合的研究 C01-4「東アジアの交流・交易システムに関する新研究戦略の開発・検討」班)

【研究期間】 平成18年度 - 22年度

【研究経費】 16,300,000 円

【ホームページアドレス】 (現在、作成中)